

く、演劇が身近にあることで私たちの毎日が心地よく、充実したものであること、本当のことが良く見えるようになることがだいじです。演劇にはそんな素晴らしい力

と魅力があることをより多くの人に知ってもらいたいから、見てくれる人を増やしたい。演劇シーズンの目標は、やはりそこに帰結するのです。

## 二〇一七年のレッドベリースタジオ〜リニューアルと心にしみる出会い

レッドベリースタジオ主宰 飯塚優子

二〇一七年の年賀状からお披露目した新しいロゴタイプで、まず入口の看板を新調しました。これまで頑張ってくれた木製の看板は、なんとキノコがたくさん生えてきて、かわいけれど文字が読みにくくなってしまいました。そこでこんどは真鍮の金属板。アーティストの佐々木秀明さんにデザインと製作をお願いしました。そしてこの看板を照らすスポットライトを新たに設置。長いこと電球が切れていた外壁のライトも明かりが入りました。催し物の案内をする掲示板も、寂しげな蛍光灯を明るいLEDに交換して見違えるように元気な雰囲気になりました。

一方、八月には水道のパッキン劣化が原因で、地下の収納庫が水浸しになりました。ステージを組むための部材など、濡れたものを全部庭に広げて乾かし、使えなくなったものを大量に廃棄。ついでにこの騒ぎで大量のほこりを吸ったことが原因で、私自身が胸膜炎で肺に炎症を起こし大変なことでした。

催しの企画では、今年は色々と念願がかないました。

母が残してくれたレッドベリースタジオのピアノを、もつともつと使っていたために九月からスタートした「マンスリーピアノ」は、辻千絵さんにコーディネートをお願いして、これまで三回開催しました。クラシック、映画音楽、朗読とのコラボなど、この先も楽しい企画が次々登場します。ふだんは脇の部屋に収蔵しているピアノを、床に傷をつけずに移動するのは大変なことでしたが、特殊なキャスターに取り換えて、なんと女性二人でも動かせるようになりました。レッドベリースタジオにピアノがあることを知っていただけたら、今後、出番が益々増えるでしょう。

ハーモニカの名手・千葉智久さんや、切り絵・影絵で活躍する黒川絵里奈さん、小林なるみさんの朗読など、ぜひレッドベリースタジオで、と声をかけさせていただいてライブや公演が実現しました。

横浜ポトシアターの語り公演「にこりえ」では、通常三〇人前後と考えている収容人数を大幅に超えて五六名のお客様を迎え、新しい可能性に驚きました。

演出で来札した遠藤啄郎さんは今年米寿を迎え、会いに来た多くの人がそのはつらつとした気迫に元気をいただきました。

また、二〇一六年一月に重い癌が見つかって闘病に専念したシタール奏者・井上憲司さんは、最先端治療

## ドラマシアターどもだより \*二〇一七年を振り返って

### 江別・ドラマシアターどもⅣ 安念優子

と驚異的な精神力で病を完全克服。二〇一六年九月以来一年四か月ぶりに来札した復帰ライブは本当に感動的なものでした。誰もがみな、生きて会えることの嬉しさに胸いっぱいでした。

昨年は九月一五日～一八日に渡って、北海道演劇集団の「第二七回北海道演劇祭 in えべつ」が、外輪船を主会場・どもはパフォーマンス会場にして開かれました。その三日間、この千歳川に沿った江別発祥の地の、大正建造の二つの建物と周辺には、休憩所や食べ物屋さん、マルシェのテントが出現しました。

外輪船の出演劇団は、オホーツクからの三劇団、「海鳴り」(紋別)・「釧路演劇集団」(釧路)・「みずなら」(斜里)。

札幌からは「座れら」「新劇場」(劇団風の子北海道・福島)、江別は「川」「ドラマシアターども」。全国リアリズム演劇会議から「しろたに



釧路演劇集団「赤い陣羽織」

まもるさん」(川崎京浜共同劇団)が腹話術で友情出演。芝居の転換時間には(どもで)ろう劇団舞夢・しろまるさんのおとぎよみ・うるうる亭・ピエロシヨウ・落語・ベリ・ダンス・ロック・フォーク・ブルーグラス。全公演、舞夢サポーターズによる手話通訳つき。キャパ一五〇人・公演時間は一時間のルール。

主たる運営は、どもの若手と地元の実行委員会(若手の定義は?六〇歳以上はバックアップ)。キャッチコピーは「江別でひろげるつながりの輪」! 秋空の下、会場はどの公演も満杯に。親子で楽しめる公演、パフォーマンスタッチも多かった。

道演集の演劇祭は、一九六三年の砂川での一回目から始まり、江別では一九九四年・二〇一〇年・二〇一七年の三回目です。労働運動・農村の青年団・高校演劇・戦後の北海道の歴史の中で生れ、つながってきた「北海道演劇集団」。現在は二五劇団(八市町村)。地元の江別高校演劇部出身の私たち夫婦にとつては、高校時代札幌